

2年学年だより

大淀中学校 2年 平成30年2月2日 第38号

(^o^) 青 春

「青春」を国語辞典で引くと、「十代後半から二十代前半の、明るく希望にもえる時期。若い年ごろ。若い時代。」とあります。

君たちは、まさに青春まったく中ですね。いろいろ悩んで、考えて、生きていく時代ですね。

「青春という字を書いて横線の多いことのみなぜか気になる(俵 万智)」という短歌も思い出されます。

前号で中学時代の恩師の詩を紹介しました。恩師が眠っておられる墓石付近に建立された石碑に、「輝く青春 光る汗」ということばが刻まれています。

辞書で定義づけられている「青春」とは違って、年齢や時代の束縛から離れた「青春」というものがあるのでしょうか。

次の詩を読んでみてください。

青 春

サミュエル・ウルマン作 岡田 義夫訳

青春とは人生の或る期間を言うのではなく

心の様相を言うのだ。

優れた創造力、^{たくま}逞しき意志、燃ゆる情熱、

怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険

心、こう言う様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。

歳月は皮膚のしわを増やすが情熱を失う時に

精神はしほむ。

苦悶や、狐疑や、不安、恐怖、失望、

こう言うものこそ恰も長年月の如く

人を老いさせ、精氣ある魂をも^{あくた}芥に
帰せしめてしまう。

年は七十であろうと、十六であろうと、
その胸中に抱き得るもののは何か。

曰く 驚異への愛慕心、空にきらめく星辰、
その輝きにも似たる事物や思想に対する

欽仰、事に処する剛毅な挑戦、

小児の如く求めて止まぬ探究心、
人生への歓喜と興味。

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。

人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。
大地より、神より、人より、美と喜悦、
勇気と壮大、そして偉力の靈感を受ける
限り人の若さは失われない。

これらの靈感が絶え、悲嘆の白雪が人の心の

奥までも蔽いつくし、皮肉の厚氷がこれを固
くとざすに至れば

この時にこそ人は全く老いて神の憐みを
乞うる他はなくなる。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく
心の様相を言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失う時に初めて老いがくる。

青春とは、年齢に関係なく、心の在り方を
いうのであれば、理想を失うことなく生きてい
きたいものです。

文語調で難しいことばもありますが、辞書
を引きながら、味読してもらいたいと思いま
す。

